

## 在宅勤務の経験がある社会人を対象とした自宅の音環境に関するアンケート調査

A Questionnaire Survey on the Home Sound Environment of Working Adults with Work-from-Home Experience

○LIU XINHE<sup>1</sup>, 富田隆太<sup>2</sup>, 岡庭拓也<sup>2</sup>  
Xinhe Liu<sup>1</sup>, Ryuta Tomita<sup>2</sup>, Takuya Okaniwa

Abstract: Due to COVID-19, the adoption of work from home has increased rapidly. We conducted a preliminary web survey of 2000 people on the frequency of work-from-home over the past six months up to the present, and found that 16% of respondents work from home at least once a week, maintaining a high level. To investigate the actual sound environment during working from home and explore ways to create more comfortable and effective environment during work from home in the future, we went on to conduct a web questionnaire survey. The results showed that the thermal environment, sound environment and internet communication environment during work from home are emphasized by working adults.

### 1. はじめに

新型コロナウイルス感染症に伴い、在宅勤務の普及が急速に進んでいる。国土交通省の調査<sup>1)</sup>により令和6年に首都圏のテレワーク実施率が27.2%であり、高水準を維持している。新型コロナウイルス感染症の流行により第1回目の緊急事態宣言が発令されてから5年後、在宅勤務中の音環境を中心とした住環境の実態を把握し、今後の快適な在宅勤務環境の整備に活かすことを目的としてWEBアンケート調査を実施した。本報では、調査結果について報告する。

### 2. 調査概要

本調査に先立ち、2025年7月25日から7月28日の3日間にWEB調査サイトでスクリーニング調査を実施し、合計2000人の回答を得た。その内、過去6ヶ月から現在まで週に1回以上在宅勤務を実施する回答者が321名(16%)であった。Table1にスクリーニング調査概要を示す。321名回答者のうち、南関東(埼玉、千葉、東京、神奈川)に住んでいる社会人を抽出した。本調査は、抽出された186名の回答者を対象に配信して実施した。調査期間は2025年8月1日から8月8日の7日間、有効回答数は146件であった。Table2に本調査の質問一覧を示す。調査項目は建物属性、在宅勤務の仕事内容、または屋内、屋外で発生した音が在宅勤務に与える影響など、在宅勤務の実態および在宅勤務中の音環境に関する項目を設定した。

### 3. アンケートの調査結果と考察

回答者の男女比はほぼ同程度であった。年代は30代が若干多かったが、20代から70代までほぼ均等に

分布していた。回答者の在宅勤務の頻度について、約2割が週に1回程度で在宅勤務し、約8割が週に2回以上で在宅勤務を実施していた。在宅勤務中に住宅の種類について、7割の回答者が集合住宅に住んでおり、その内の32%は鉄筋コンクリート造、37%は鉄骨鉄筋コンクリート造であった。3割の回答者が戸建住宅に住んでおり、その内の77%は木造であった。住宅の間取りについて、4LDKは23%、3LDKは25%、1LDKは12%、1Kは10%であった。

Figure1に、「在宅勤務中にお住まいの住宅に専用の作業スペースがありましたか」の結果を示す。専用の作業スペースがない回答者が50%であった。「同居人がご自身の在宅勤務にどのような影響を与えたか」という質問で、専用の作業スペースがない回答者は専用の作業スペースがある回答者より、「同居人の話し声や生活音がうるさい」、「仕事の話しを聞かれるのが不快である」など同居人からのネガティブな影響を受けやすい傾向が見られた。在宅勤務中に同居人がいる場合は専用の作業スペースが必要であると考えられる。

Figure2に、「在宅勤務中に作業環境について気になったことを教えてください(複数回答)」の結果を示す。11%の回答者が「特になし」と回答した。それ以外、10%の回答者が「室内の温度」、8%の回答者が「屋外から伝わる音」、7%の回答者が「部屋の風通し」「インターネットの通信状況」と回答した。

Figure3に、「在宅勤務中自室内で発生して最も気になった音を教えてください」の結果を示す。38%の回答者が「特になし」と回答した。それ以外、「話し声」が15%と最も多く、その次は「住宅設備の音」が10%であった。また、Figure4に、「在宅勤務中屋外で発生

1: 日大理工・院(前)・建築 2: 日大理工・教員・建築

して最も気になった音を教えてください」の結果を示す。31%の回答者が「特になし」と回答した。それ以外、12%の回答者が「車の音」、11%の回答者が「工事現場の音」と回答した。また、「在宅勤務中に気になった音によってどのような影響がありましたか」の結果を Figure5 に示す。「ストレスがあった」「集中できなかった」が18%、「パソコンから出した音が聞こえにくくなった」が8%、「オンライン会議時騒音が入ってしまった」が6%であった。

4. まとめ

本報では、過去6ヶ月から現在まで週に1回以上在宅勤務を実施した社会人を対象として在宅勤務の実態調査を行った。在宅勤務中に自宅の温熱環境、音環境、インターネット通信環境に対して重視されていることがわかった。また、半分の回答者が在宅勤務中に騒音により一定程度の影響を受けており、在宅勤務において快適な音環境の創造が必要だと考えられる。今後、建物構造別や回答者年代別による在宅勤務実態の違いの分析を行う予定である。

5. 参考文献

- [1] 国土交通省：令和6年度 テレワーク人口実態調査 調査結果，2025年3月  
<https://www.mlit.go.jp/toshi/kankyo/content/001879091.pdf> (2025年9月参照)

Table1. Screening survey

問1 在宅勤務の経験がありますか
問2 過去6ヶ月から現在までの在宅勤務の頻度を教えてください
問3 在宅勤務中にお住まいの地域を教えてください

Table2. Survey items

問1 住宅の種類と構造種別 (選択式)	問11 騒音問題による窓の開閉状況 (選択式)
問2 住宅の間取り (選択式)	問12, 13 自室内で発生した音と気になる音 (選択式・複数回答)
問3 専用の作業スペースの有無	問14, 15 他住戸内または屋外で発生した音と気になる音 (選択式・複数回答)
問4 在宅勤務中の仕事内容 (選択式・複数回答)	問16 気になった音による影響 (選択式・複数回答)
問5, 6 在宅勤務中同居人からの影響 (自由回答)	問17 オフィス勤務に比べて、在宅勤務した際に音環境に関して良かった点 (自由回答)
問7 作業環境について気になったこと (選択式・複数回答)	問18 オフィス勤務に比べて、在宅勤務した際に音環境に関して悪かった点 (自由回答)
問8 作業環境について必要だと思う (選択式・複数回答)	問19 吸音・遮音対策の導入
問9, 10 イヤホン・ヘッドホンの使用状況 (選択式・複数回答)	問20 吸音・遮音対策の予算

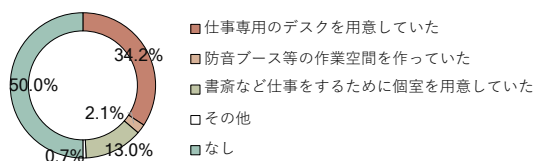


Figure1. Appropriative workspace (n=146)

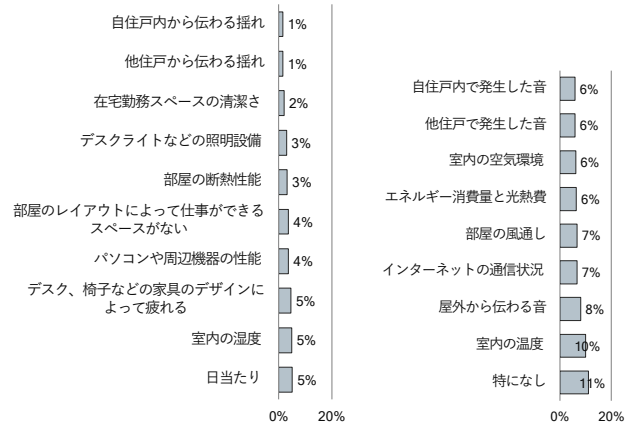


Figure2. Concerns about the workspace during working from home (n=410 multiple answers allowed)

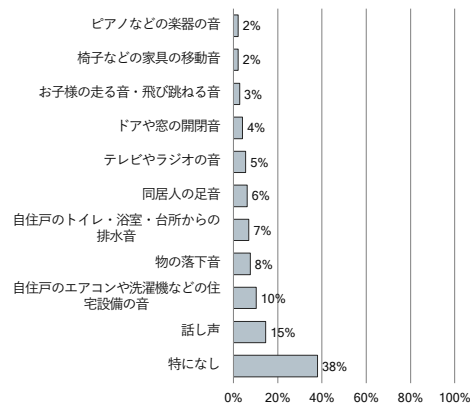


Figure3. The most disturbing noise in your home during working from home (n=146)

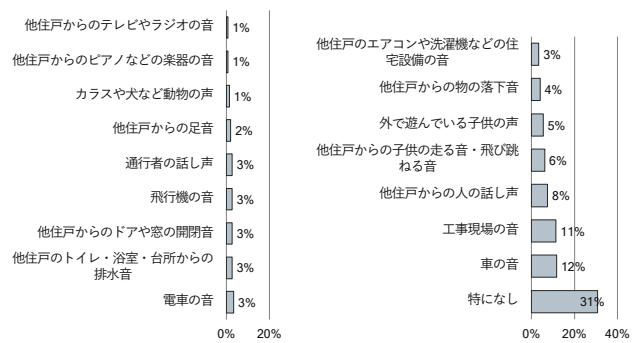


Figure4. The most disturbing noise outside your home during working from home (n=146)

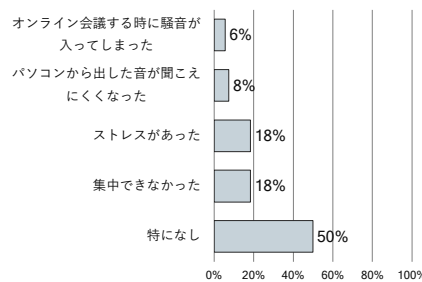


Figure5. Effects of disturbing noises during working from home (n=174 multiple answers allowed)